

《履修上の留意事項》面接授業と遠隔授業の併用実施

《担当者名》井関健

【概 要】

薬理学は薬物と生体の相互作用を理解する学問である。本講義では、医薬品がどのようなしくみで生体に作用するかについての基本知識を習得する。さらに薬物の体内動態などの薬物に影響を及ぼす要因や、薬物の副作用についての知識を習得する。これらの授業内容を通じて医薬品と生体の相互作用に関する理解を深め、リハビリテーション医療に生かせる薬物の基本的な知識を身につける。

【学習目標】

【一般目標】

理学療法士、作業療法士として必要な薬物の基本的な知識を身につける。

【行動目標】

1. 薬物の作用様式と作用機序を説明する。
2. 薬物の吸収、分布、代謝、排泄を説明する。
3. リハビリテーション医療と関連する主な薬物の薬理作用を説明する。
4. 薬物の副作用、有害作用の基本的事項を説明する。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	医薬品とは	●医薬品とは何かを説明できる。 ●医療用医薬品と一般用医薬品の違いを説明できる。 ●処方せん医薬品とは何か説明できる。	井関健
2	薬の作用と作用点	●薬物の作用機序にどのような種類があるかを説明できる。 ●薬物と受容体の相互作用を説明できる。 ●身の回りにおける代表的な薬物の作用機序を説明できる。	井関健
3) 4	薬物の体内動態	●薬物の作用を学ぶ上で必要な薬物動態の基本（吸収、分布、代謝、排泄）を説明できる。 ●高齢者における薬物動態を説明できる。 ●薬物動態と副作用発現との関係を説明できる。	井関健
5	医薬品の開発	●人類の延命に寄与した代表的な薬物を説明できる。 ●医薬品開発のステップを説明できる。 ●日本人が開発した画期的な医薬品を列挙することができる。	井関健
6	医薬品の副作用と毒性	●医薬品の主な副作用や毒性を説明できる。 ●日本で起きた代表的な薬害事例を説明できる。	井関健
7) 8	薬理学各論	●臨床応用に基づいて医薬品を大まかに分類することができる。 ●リハビリテーション医療と関連する主な医薬品を列挙し、その作用と副作用を説明できる。	井関健

【評価方法】

試験100%、100点満点で60点以上を合格とする。

【備 考】

教科書：指定しない。

参考書：中原保裕 編 「薬のはたらきを知る やさしい薬理のメカニズム（改訂版）」 学研メディカル秀潤社 2011年
丸山 敬 著 「休み時間の薬理学」第2版 講談社 2015年

【学習の準備】

配布した資料に目を通し、生理学や生化学の用語を事前に調べておくこと。（80分）
前回の授業内容を復習しておくこと。（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

薬剤師

【実務経験を活かした教育内容】

長期実務経験を基に、チーム医療においてリハビリテーション専門職が備えておくべき医薬品に関する基本的事項を講述し、多種多様な医薬品の特性に関する理解を深めるための講義を行う。